

## おひとりさま事例集（1） ～ガン告知を受けて～

事例のコラムが好評でしたので、今回から様々なおひとりさまの事例をお伝えしていくこととします。

金子雄二さん（68）は、高校卒業後に佐賀県から上京し、不況のたびに職を変えながらも最後は金属加工会社で60歳の定年を迎え、昨年まで雇用延長で働いていました。縁がなく結婚はしませんでしたし、高い収入を得ることはありませんでしたが、ひとりであれば特に不自由なく暮らしてきました。



既に両親は亡くなっており、たった一人の兄弟だった兄も、5年前に壮絶なガン闘病を経て亡くなりました。亡くなった兄には、妻と2人の息子がおり、いずれも東京都内に居住していますが、兄の葬儀以降は連絡をとっていませんでした。

そんな雄二さんが、昨年まで無理なく雇用延長で働いていた会社を退職した理由は、健康診断で異常が見つかり、再検査の結果、ステージⅣで既に転移の所見のある肺ガンの告知を受けたからです。

雄二さんは、医師からのガンの告知に内心とても動揺しましたが、一緒に受け止めてくれる人がいるわけでもなく、1週間ほどの日にちは必要でしたが、ここから自らの命を無理なくまっとうしようと冷静に受け止めることができるようになっていました。

特に兄嫁や甥っ子たちに世話になるつもりはありませんでしたが、親族といえ彼らしかいないので、何の気なしに「知らせておかなければ」と思い立ち、兄嫁に久しぶりにお電話をして、ステージⅣのガンの告知を受けたことを伝えたそうです。

すると、思いがけない言葉が兄嫁から返ってきたそうです。

「申し訳ないんですけどね、お金も迷惑もいりません」と。

心優しい雄二さんは、兄嫁のこの言葉も、とても冷静に受け止めました。兄嫁は亡くなった兄の6年にわたるガン闘病で、大変な苦勞をしてきたのだと。自分の夫でもこんなに大変な思いをしたのに、血の繋がりのない義弟のことで、また同じ苦勞を買って出ることなんてできないだろうと。それは、甥2人だって同じだろうと。

雄二さんは、改めて親族に迷惑だけは絶対に掛けないと心に誓い、OAG ライフサポートの扉を叩きました。兄嫁や甥っ子たちに対して、恨むような気持はまったくありません。自分の人生の幕引きを、自分の意思で自分のお金を使ってやり切るという思いです。

年金の金額も預貯金も決して多くはありませんが、「ここから長生きするわけではなく、誰にも迷惑を掛けずに寿命をまっとうするために、足りなくならなければそれでいい。誰に残すわけじゃないし」と、力強く語っていた雄二さんの笑顔が印象的です。